ーKRSW研究会&多職種リハビリ勉強会実行委員会ー
活動と参加のある在宅生活をデザインする　２

多職種チームで考える「意思決定支援」とは

～自律に向けた支援の考え方を学ぶ～

日本福祉大学　田中千枝子

私のこと

ＲＳＷの経験　10年　1982年～1992年

家族としての体験　1990年～1999年

教員としての理論化時代　　1992年～2010年

再度家族の体験　　2016年～

リハビリ患者の退院とその後の生活

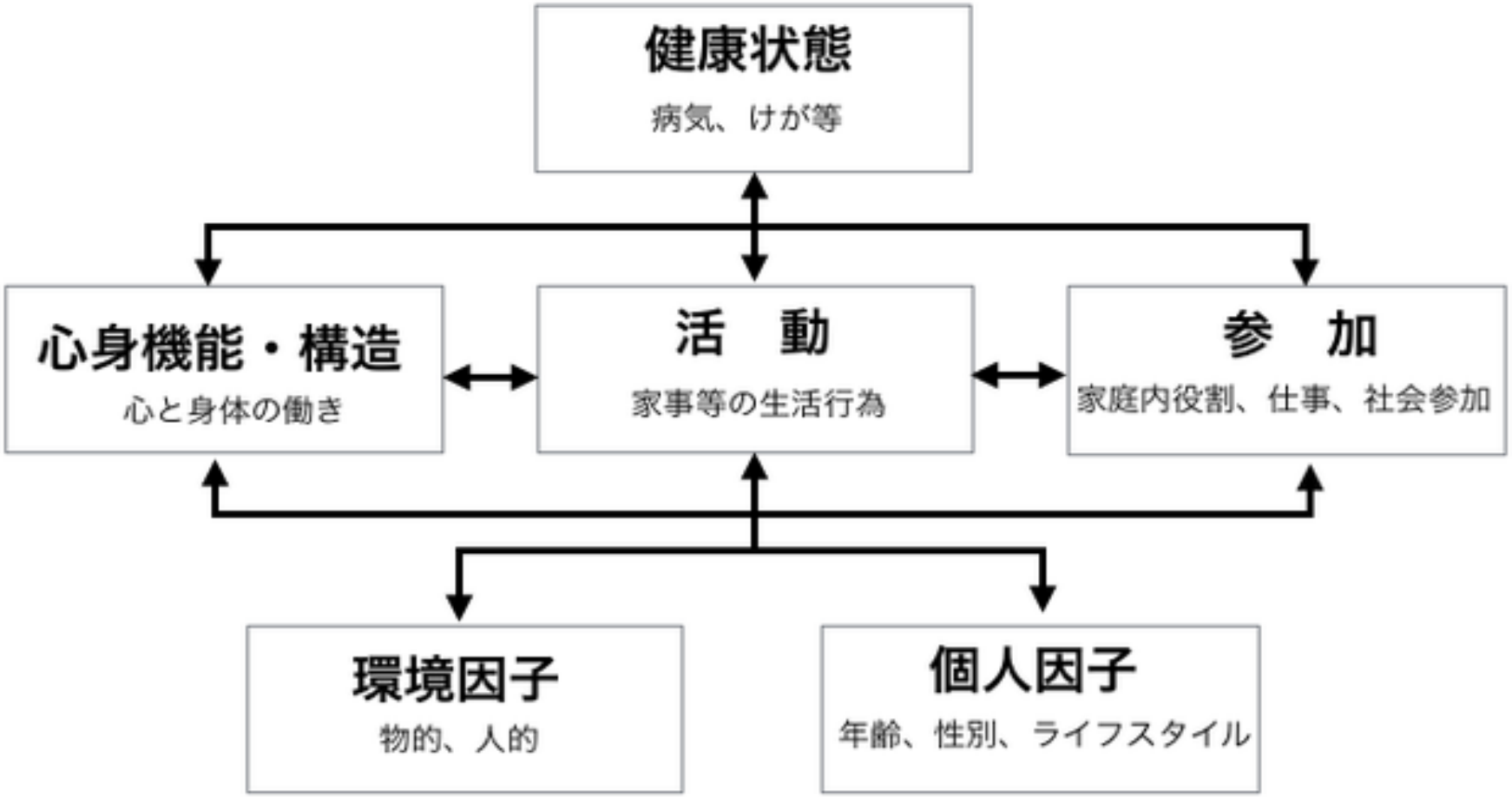
時代背景

リハビリテーション思想

患者感覚

地域社会資源

現代における活動と参加



支援側の考え方の枠組み変更

支援者側からの考え方の枠組み変更

医学モデルから生活モデルへ
問題を掘り下げる⇒除去⇒治癒
各問題は関連し合っている⇒問題状況⇒介入⇒変化

その人が暮らす暮らし方を決める　当事者中心
その人の解決を聞く　描く
人は意思をもって生きている　支援さえあれば意思は決定できる

自立から自律へ

Indepence

癒やす　自分でやる　人の助けはなし

Autonomy

癒える　自分で決める　人の助けは受ける

自律のくらしとは

当事者のレジリエンス（ストレングス）をもとに

自分で決めた生活（暮らし方）を明確にして

様々な人や資源の助けを借りながら

暮らしていくこと

意思決定支援のなかで

人権擁護　２つの考え方

成年後見制度を
当事者に意思がないので、代理人
財産管理　　⇒パターナリズム

意思決定支援に代えていこう
当事者には意思がある
表明しづらいだけ　　代弁人
療養監護　　⇒オートノミー

猫のおばあさんの事例

梅さん　　女性　89歳

認知症　　要介護３　90歳の夫と自宅で
2人ぐらしだったところ　特養入所が決定
しかし入所前日に夫が死亡
とりあえず入所したが、本人は帰ると

「家にいる愛猫と暮らす」「ご先祖を奉らないと」
「家の畑にも行きたい」

意思決定支援として退所を描く

皆で考えてみて下さい

この事例に転倒多発があれば、結論は変わりますか？

この事例に徘徊による交通事故の可能性が入れば、結論は変わりますか？

当事者にとって活動と参加の意味

自立するということとは

自律を考えることの意味